

深い学びを実現する体育科の授業づくり ～多様な関わり方の工夫を通して～

北広島町立大朝小学校

全児童生徒数	63名 (男子30名 女子33名)
全クラス数	7クラス(特別支援級1クラス)
TEL	(0826) 82-2027

1 課題と目的

研究主題を『深い学びを実現する体育科の授業づくり～多様な関わり方の工夫を通して～』としている。これまでの取組の中で、体育授業や運動・スポーツの好意度、体育授業の満足度を見取る児童アンケートにおいて、ほぼすべての項目が向上した。また、劣等コンプレックスを見取る児童アンケートにおいて、すべての項目が好転した。アンケートから全体の傾向は分かったが、児童がどのように変容したか、なぜその結果になったのか、質的に検討はできていなかった。そこで、質的な理由の検討のため個別のインタビューを分析し、個に応じた支援、授業改善につなげた。また、「できるようになる喜び」に焦点をあて、満足度の高い授業を目指す取り組みを行った。

2 主な取組の内容

- スモールステップモデル**
 - 「やってみよう、わかった、できた、やってよかった」と実感することができる「スモールステップモデル」の開発。
- アンケート&インタビュー**
 - 実践と結果を、客観的データをもとに検証し、授業改善に活かす。(個に応じた支援)
- 体育ノート**
 - 単元全体の共有。
 - めあてに沿った振り返りを記入。自分の課題や目標を明確にし、今後に活かす。
- セットメニュー**
 - 運動が苦手な児童や運動に意欲的でない児童も、楽しく運動ができるための工夫。
 - 授業の導入に、「本時の内容に関わるもので、楽しく、運動量のあるもの」を取り入れる。

3 取組で工夫したところ

- スモールステップモデル**

各技ができるようになるためのスモールステップの具体的な動きと、各技を行うためのポイントを書き込んでいくスモールステップカードを提示し、それを活用することで技の行い方を視覚的に理解させるとともに、誰もが「これならできそう」「やってみよう」と、

楽しく取り組むことができるようになった。さらに、グループでお互いの技を見合い、アドバイスし合う際の視点を明確にすることもでき、有効的に活用することができた。

(2) アンケート&個別のインタビュー

大学と連携して行っているアンケート結果から、苦手意識について、インタビュー内容を大学に詳しく分析していただいた。分析結果により、授業の中で配慮の必要な児童に個に応じた支援を行うことで、楽しく活動したり、技能を身に付けたりすることができるようになった。

(3) 体育ノート

単元の初めに、学習計画や項目ごとのめあてを書いたシートを体育ノートに貼り、共通認識を持たせた。視点を明確にして振り返りを書かせ、児童自身の課題や目標を明確にし、次への意欲につなげた。指導者の見取りや評価、次の時間の授業構成に活かした。

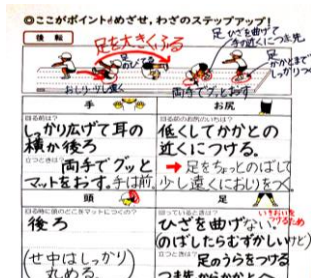
(4) セットメニュー

導入時に、体育が得意でも苦手でも、「楽しい」「やってみよう」という気持ちになることができるように内容を工夫し、さらに「本時の内容に関わるもので、楽しく、運動量のあるもの」を取り入れることで、体育・運動が好きという児童が増えてきた。

4 成果と今後の課題

「運動が好き、スポーツが好き」と回答した児童の割合が、92%から93.7%に、「体育授業の満足度」は、86%から92.6%になった。

また、「スモールステップカード」の活用や、「アンケート結果による個に応じた支援」を行った結果、「できるようになった」「やってよかった」「もっとできるようになりたい」と感じる児童が増えた。これらの結果から、一定の成果があったと考えられる。しかし、体育の授業にあまり満足していないと答えた児童からは、「運動時間がもっと欲しい。」「できるようにになったら、その時間はできたことの繰り返しになる。もっとレベルアップしたい。」などの声が聞かれた。運動時間の確保、技能差に応じたさらなる指導方法の工夫改善については今後の課題である。



スモールステップモデル

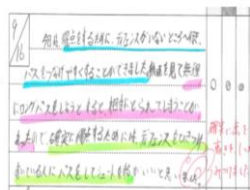
技の行い方を提示

「～ができるようになった。」

めあて より確実に得点をするためのより良い動きとは、どんな動きだろう。

キーワード

- ボールを持っている人 (オフェンス)
- ボールを持っていない人 (ディフェンス)
- 敵(相手)
- 味方



体育ノート

めあてに沿った振り返りを記入

「～がわかった。次は～するとよい。」



セットメニュー

ボール運動 (バスケットボール)

「ことりおに」